

シリーズ  
「景観文化考」第3回

S E R I E S

# デザインの公共性と私有性

L A N D S C A P E

「歴史は勝者のものだけど、文化は敗者によって残されるものなのですよ」先日の全国紙の文化欄で、90歳の日本画家である堀文子さんが語った言葉だ。現況の格差社会においては、勝者・敗者の表現が妥当に思えるが、これを別の言葉に置き換えれば「歴史は権力者のものだけど、文化は庶民によって残される」とも言い換えられる。昨年来の経済不況においては、経済力を有する一部の権力者の失策が、世界中に多くの失業者や生活困窮者を輩出させ、庶民が敗者に追いやられた様相で、勝者に起因する負の歴史的記録が刻印された出来事であった。

しかしまた、日本の江戸時代の場合などを考えると、歴史に残る徳川幕府の武士社会の権力下で、庶民は豊かな暮らしの文化を育み、幕末に訪れた外国人にも評価された、美しい街並景観の形成と多様な庶民文化を創出した時代もあった。江戸では権力者と庶民が、勝者と敗者の立場の違いはあっても、各々の係わり方で街づくりへ貢献していたと思われる。

江戸の暮らしの風景を再現してみると、地域のアイデンティティが反映された秩序ある街並みの街路空間を舞台に、各商店オリジナルの意匠デザインを凝らした暖簾や看板が掛かり、店舗前の花や鉢植えが季節感を演出し、人々が三々五々行き交う賑わいがあったと考える。花見や祭りや社寺参拝などの祭事を楽しみ、いろいろな定期市、お節句・お月見や地蔵盆などの年中行事が営まれ、資源の再生・循環の取り組みも盛んで、地域コミュニティが防犯・防災対策を含めて健在であったことから、人々の街づくり活動への参加も、日常生活の中で無理なく自然に育まれていたと考え



中井 和子 (なかい かずこ)  
中井景観デザイン研究室 代表

東京出身。筑波大学大学院環境デザイン専攻修了。(株)G.K.インダストリアルデザイン研究所(東京)勤務を経て、1975年～78年フランス政府給費留学生として、マルセイユ及びパリの国立美術大学で建築・環境デザインを学ぶ。1985年建築・環境デザインの研究所を設立し現在に至る。北海道教育大学・札幌市立大学・北海道工業大学の非常勤講師、「まちの色彩作法」(共著)・「農業・農村と地域の生態」(共著)・「北のランドスケープ」(共著)など。



る。このような街づくり文化の創出は、ヨーロッパの歴史・文化のある都市でも見られる事象で、権力者が秩序ある都市景観の骨格を形成し、市民は町の広場や街路空間において豊かな暮らしの文化を开花させていた。

景観形成に関するデザインの考え方の方向性は、大きく二つに分類できる。一つは、「デザインの私有性」で、個々を表現するデザイン行為である。例えば、店舗ファサード\*やショーウィンドウのデザイン、建物前の鉢植えや住宅前庭のガーデニング、祭りやイベントの旗、人々の服装や車のデザインなどは、流行や賑わいを演出し、人々の個性や嗜好<sup>しこう</sup>を表現できる内容であるから、意匠や色彩に多少派手で目立つ要素が表現されるデザインでも良いと考える。

他方、「デザインの公共性」という考え方が存在する。街の景観形成の骨格的要素のデザインで、長期的に地域景観を規定する大規模建築物や土木などの公共施設のデザインで、一時の流行を追った派手で目立つ内容は、将来に持続する景観形成において、マイナス要因となる場合もある。時間的経過のなかで周辺環境から浮出し陳腐化することが起こりうる。地域の総合的景観形成という観点からは、周辺環境に調和する公共的視点で考える、町のスケールにふさわしい「デザインの公共性」が要求される。この二つのデザイン概念は極めて明快であるにもかかわらず、経済力ある人々に「公共的視点でデザインする」意義が伝わらない場合も多い。派手な広告・看板や奇抜な大規模構築物等で地域景観を私物化している場合も多々見られる。

「デザイン (design)」とは、本来、ものづくりのみ

を指すのではなく、自然環境や生活文化も含めて、人間が介在し、保全する、育成する、創出する、整備する等の、地域に影響を及ぼす活動はすべて、デザイン行為と考えられる。したがって、景観形成においては、「デザインする」具体的行為のあり方の質が課題となってくる。先の江戸時代の街並景観では、デザインにおける公・私の使い分けが、暮らしの作法として庶民のまちづくり文化のなかに備わっていたと考える。

江戸やヨーロッパの都市の街づくりの手法は、今日でも有効である。快適に暮らせる生活環境基盤と安心・安全の社会システムが整備されれば、庶民は豊かな暮らしを育むゆとりが生まれ、美しい景観形成や街づくり活動に参加できる地域文化が創出される。現況の格差社会であっても、勝者と敗者の立場を超えて、「開かれた権力者」と「行動力ある庶民」が連携し、総合的観点から地域の魅力を引き出せる街づくり活動を、協働で取り組んで行ける仕組みづくりが期待される。

「グローバルに考え、身近なところから行動していく」ことは、地域の魅力ある景観づくりにもあてはまる。

\*ファサード (façade 仏) : 建物の正面



※写真撮影：筆者